1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673000156
法人名	医療法人 佑志会
事業所名	グループホーム 花々館
所在地	鹿児島県日置市伊集院町徳重三丁目3番地14 (電話) 099-273-8787
自己評価作成日	令和6年2月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様がそれぞれのペースで、安心して日々を過ごせる様、職員は情報共有しながら支援することを心掛けています。母体である守屋病院と医療連携を24時間内体制で行える為、本人の訴えや不安な時にすぐに看護師と連絡を取り、素早い対応が出来ているので、御家族にも安心して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は近距離にJR駅や商店街・飲食店等があり、生活の利便性が高い環境にある。また、母体医療機関も数分の位置にあり、週1~3回のリハビリ通院支援、定期的の訪問診療や週1回の看護師の健康チェック、年2回の定期検診で健康管理し24時間医療連携体制で、適切な医療が受けられるよう支援している。
- ・2ヶ月に1回、対面での運営推進会議を開催し、事業所の活動報告後、活発に意見交換を行い、出された意見はサービス向上に活かしたり、検討事項として今後活かすように務めている。
- ・管理者は職員の意見や提案を聞き、相談にも対応し、働きやすい環境づくりを心がけている。
- ・家族等の面会時はいつも笑顔で対応し、写真撮影や利用者の現状を説明することで、家族の安心につながっている。
- ・職員は定期的な事業所の勉強会や法人内研修会に職員全員参加し、スキルアップや自己研鑽に努めている。また、利用者と一緒に過ごす時間を大切にコミュニケーションを図る支援をしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り後に理念の唱和を行っている。全職員が同じ目標に向かい、理念の意識を高め、実践出来る様に心掛けている。	理念はパンフレットや重要事項説明書に掲載し玄関や各ユニットに掲示。毎朝申し送り後に唱和を行い実践している。毎月スタッフ会議で振り返り、次のケアに繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染状況もあり、行事参加がまだ中々出来てないが、避難訓練等は地域の方に参加してもらい、少しずつ交流が増えている。	自治会に加入し、広報誌等の回覧で地域情報を得ている。中学生の体験学習の受け入れを行っている。母体医療機関からの差し入れがあったり、散歩時に地域住民との挨拶交流をしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	日置市の現状や認知症の症状等の理解を運営推進会議を利用して発信にしている。日置市開催の研修にも参加している。中学生の職場体験の受け入れも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催している。自治会の代表、行政の方々、民生委員、入居者様の御家族の参加も得ています。活動状況や事故報告等を行い、サービス向上へ活かすように努めている。	2ヶ月に1回、対面での会議を開催し、入居者状況・行事・事業所の活動状況・ヒヤリハット・事故報告を行い、質疑応答で活発に意見交換を行い、出された内容を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>介護保険課の職員や関係部署の担当者とは電話や訪問を行い、連携を図っている。</p>	<p>市担当者とは窓口に出かけ、書類提出や手続き・相談事で助言をもらったり、生活保護担当者とは訪問や電話での問い合わせをして情報共有し、日頃から連携・協力関係を築いている。介護相談員の受け入れや市主催の研修に管理者が参加し、職員に伝達している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束委員会を中心に学び、共有意識を図っている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催し動画でスピーチロック等の勉強会を実施し、虐待防止委員会も開催している。毎月の勉強会や法人開催の勉強会にも参加している。日中の玄関施錠はせず外出したい場合は敷地内や近隣の散歩をしている。危険防止目的で2階入口にセンサーを使用し、家族の了解を得て、定期的に意見交換し記録している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないことがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>3ヶ月に1回セルフチェックを行っている。また、常に利用者の身体状況を観察し、虐待防止に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>勉強会等を定期的に行い、全職員が権利擁護に対する認識を深める様に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>説明を十分に行い、利用者や家族の方の不安や疑問を和らげ、必要に応じて繰り返し説明を行うことで、理解、納得して頂けるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者と話をする機会をもち、利用者の行動や表情から思いを考察し、ケアに活かせるように努めている。御家族に関しては、面会へ来られた時に相談・話しやすい雰囲気にも努めている。運営推進会議にも必ず、家族代表1名参加してもらっている。</p>	<p>日々の関わりの中で意見や要望を聞き、行動や表情からも思いを把握している。家族とは面会・電話・運営推進会議等で状況説明し意見や要望を言える機会を設けている。要望を反映させ、施設内の行事の写真や利用者の写真を家族に郵送し報告している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に1回スタッフ会議を開催している。申し送りを利用し、スタッフの意見を聞いている。</p>	<p>管理者は毎月職員会議やユニット会議・申し送り・日々の関わりの中で意見や提案等を聞いている。意見や提案はケア業務のことが多く、希望休の相談にも対応し、消耗品や調理器具の購入等もあり反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修への参加する人数制限があるが、出来る限り参加するようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内外での情報共有を図り、質の向上に向けて取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の聞き取り、面談を行っている。また、入居後はスタッフに話しかけやすい雰囲気作りを心がけている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の方も気軽に相談しやすい雰囲気作りを行い、信頼関係を築きやすい様に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族からの意向だけではなく、職員からの意見も聞き取り、本人様へあったサービスも提供出来る様に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>人生の先輩であることを職員1人1人が認識し、利用者1人1人にあった声かけ、関わる時間を増やせるように心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>身体状況について観察し、日常の様子について家族へ報告・連絡し情報共有に努めている。面会等も積極的に出来ている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人・知人との関係が絶えることがない様に家族の方にも協力を頂きながら支援に努めている。</p>	<p>面会は距離を考慮して駐車場や玄関で行っている。携帯電話持参の場合は自由に会話している。電話・手紙・はがきの取次やプレゼントの受け取り支援もしている。2ヶ月毎の訪問理美容師・家族の協力で墓参り支援・職員による買物支援・医療機関受診後のドライブ支援等、馴染みの人や場所との関係が途切れない支援をしている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員が間に入り、お互いが良い関係を築けるように支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後も必要に応じて、家族、利用者の相談や支援が出来るような関係性に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的にサービス内容の確認で意向を把握したり、日々のコミュニケーションから引き出している。	日々のふれあいの中で、特にホールや居室で過ごされている時に思いや意向を聞いている。困難な場合は表情や行動からの考察、家族にも相談し、日頃の介護記録から情報共有しカンファレンスで意見交換し、利用者に寄り添う方向で検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴などの情報を収集し、職員同士で情報共有を図る為にカンファレンスを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	年齢等を配慮し、1人1人自由に見守り、声掛けの中で過ごしてもらう。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行っている。その中でプランの内容を確認し、プランに反映している。	本人・家族の思いや意向を聞き、主治医や毎週訪問の看護師の意見・定期的なカンファレンスでの意見を参考に現状に即した介護計画を作成している。家族には面会時や電話で説明している。モニタリングを6ヶ月毎に実施し見直しもしている。状況変化時はその都度見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録とは別に特記することがあれば、ケアの記録をとり、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人にあったサービスを提供出来る様に看護師等を中心に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政との連携、中学生の職場体験を受け入れることで、個人の力が発揮できるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医のほか、利用者からかかりつけ医及び他科診療も受けられるよう家族の協力のもと通院介助を行っている。	入所前からのかかりつけ医や母体医療機関での受診を支援している。2週に1回の訪問診療と週1回の看護師の健康チェック、週1～3回の通院リハビリを行っている。年2回の定期検診と24時間医療連携体制で適切な医療を受けられるよう支援している。定期的に歯科医の訪問診療もあり、他科受診時、基本家族同伴であるが職員同伴の時もある。結果は電話や面会時に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中の見守り、ケアで気付いたことを医療連携の看護師に報告し、適切な医療や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	え		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの終末期はしていない為、重度化した場合は、家族へ相談し、医療連携機関と協力を行いながら支援している。	入居契約時、重度化対応介護指針のマニュアルに基づいて説明し同意書を貰っている。重度化した場合、主治医から説明を行い、家族の意向を確認し、医療的行為が必要な場合は医療機関への転院や家族の意向に寄り添い医療機関と連携しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や緊急時は主治医・看護師にいつでも連絡が取れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>3か月毎に自主訓練を行い、年に2回は消防署立会いのもと訓練を行っている。</p>	<p>年2回昼夜想定で消防署立会で通報訓練・避難誘導訓練・初期消火訓練等、総合訓練の実施後講話があり助言を貰っている。自主訓練も3ヶ月毎に実施し、地震・火災発生時ペーパーシュミレーションで話し合ったり、水害時の避難訓練では問題点の発見に繋がっている。防災機器点検を業者依頼で年2回実施している。地域住民の協力体制を構築している。備蓄は水・お粥・おかず・缶詰・レトルト食品等を3日分とカセットコンロ・懐中電灯を準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>職員の意識向上を図り、利用者1人1人にあった声かけや対応を行うように心がけている。</p>	<p>人格の尊重やプライバシー確保についてのマニュアルが有り、法人内の研修や事業所内でも職員会議やカンファレンスで事例を挙げて学習している。入室時はノックと声かけ、排泄や入浴時は利用者に応じて声かけの工夫・ドアの開閉・バスタオルを掛ける等、羞恥心に配慮した対応を心がけている。自己決定しやすいように「どうされますか」と声かけして支援している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>コミュニケーションを取る中で、本人様の思いや意向を表現できる場作りに努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の利用者の健康状態や体調に合わせて食事や入浴、リハビリを本人に聞きながら行っている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>利用者の出来る範囲で選んでもらっている。定期的に衣替えやタンスの整理を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者1人1人に合わせて食べやすい様に食事形態を工夫している。行事の時は、それにあつた献立を提供している。栄養課との連携をとりながら、おいしく食べてもらえる様努めている。	毎月嗜好調査を実施し、食形態は利用者の状況に応じて食べやすいように提供している。補食としてパン・バナナの提供もある。手作りのおせち等の行事食や誕生会にはケーキ等、楽しみが持てるよう工夫している。後片付けの下膳やテーブル・お盆拭き等を一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食事量・水分量の記録、月1回の体重測定を実施し、結果を看護師、管理栄養士と情報共有し、改善に努めている。好みの飲み物の購入支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には口腔体操を行っている。毎食後口腔ケアを行い、夜間は義歯洗浄を行っている。必要に応じて訪問歯科を受診し、助言をもらい、口腔状態の維持・改善に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人の排泄リズムを把握し、時間を決めてトイレ誘導を行い、トイレで排泄出来る様に支援している。	排泄チェック表でパターンを把握し、時間帯や声掛けでトイレ誘導し排泄支援している。排泄用品は個々人に応じて対応している。夜間帯は声かけ誘導やおむつ交換で対応している。暖かい環境設定を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量に注意し、適度に身体を動かす機会を作り、腹部マッサージを行い、出来るだけ下剤に頼らず、自然は排便出来る様に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴する順番は、なるべく希望に合わせて入浴している。必要に応じて足浴や清拭を行っている。	週3回で順番や湯温は希望に応じて対応し、利用者の状況に応じて浴槽やシャワー浴の支援をしている。脱衣所の温度調整も心がけ、拒否がある場合は時間をずらしたり、声かけの工夫や無理強いせずに翌日支援や全身清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣として、食後は時間を決めて、休息出来る様にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を活用し、薬の個数をダブルチェックで確認し、誤薬、飲み忘れがない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みを引き出し、ゲームや歌、体操や散歩などを取り入れ支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ禍で外出・外泊することが難しい状況にあるが、個別で外気浴をしたりしている。定期的な外出として、家族、本人希望により、守屋病院へ週1～3回リハビリ通院を行っている。</p>	<p>年間行事計画表はあるが、コロナ禍で外出支援は難しい状況にある。個別にフロア前の駐車場に出て、日光浴や外気浴・近隣公園まで散歩支援をしている。桜の花見や定期的にリハビリや医療機関受診後のドライブで景色を楽しみ、家族の協力で墓参り等、外出支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持っている方はいませんが、預り金を預かっている利用者に関しては、訪問美容や買い物等の支援を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族・知人へ連絡したいと言われれば職員が連絡そ、会話してもらっている。年に1回、年賀状をご家族には出している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>清潔を保たれるように環境整備（消毒・照明・湿度・温度等）に努め、動線の確保や話しやすい配置の工夫を行っている。</p>	<p>フロアは定期的に換気し採光は遮光カーテンで調整し温湿度計を見てエアコンで過ごしやすい環境を心がけている。壁には塗り絵を掲示し、テーブル・椅子・テレビ・ラジカセ・ソファを配置し、音楽を流したり、新聞や雑誌を読んで自由に過ごし、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者同士のコミュニケーションは、それぞれ行っている。居室へ誘導したり、本人に聞きながら、居場所の確保を行っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>生活習慣を崩さずに、本人様が使い慣れた物を持ってきていただき、安心して生活が出来るように支援している。</p>	<p>居室の入口は花を描いた表札があり、電動ベッド・エアコン・タンスを設置し、寝具はリースであるがクッション類は持ち込みである。使い慣れたハンガーラックやテレビ・家族写真・ぬりえ等を飾り、安心して生活できるように工夫している。乾燥防止で濡れタオルを活用することもある</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要と思われるところに手すり等の設置をしたり、起居動作がしやすいようにベッドサイドレールの交換等、残存機能・能力が安心して活かせるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない